

問題

問題文中で共通に使用される表記ルール

各問題文中に注記がない限り、次の表記ルールが適用されているものとする。

試験問題での表記	規格・標準の名称
JIS Q 9001	JIS Q 9001:2008
JIS Q 14001	JIS Q 14001:2004
JIS Q 15001	JIS Q 15001:2006
JIS Q 20000-1	JIS Q 20000-1:2012
JIS Q 20000-2	JIS Q 20000-2:2007
JIS Q 27001	JIS Q 27001:2006
JIS Q 27002	JIS Q 27002:2006
JIS X 0160	JIS X 0160:2012
ISO 21500	ISO 21500:2012
ITIL	ITIL 2011 edition
PMBOK	PMBOK ガイド 第4版
共通フレーム	共通フレーム 2013

問題

問 1

正解

完璧

直前
CHECK

ITILのサービスストラテジ段階で管理するサービスポートフォリオの構成要素のうち、サービスパイプラインに収録されるサービスはどれか。

- ア 開発が完了し、顧客に提供することが可能なサービス
- イ 今後、段階的に停止されたり、取り消されたりするサービス
- ウ サービスオペレーション段階で実行されているサービス
- エ 将来提供する予定である開発中のサービス

問 2

正解

完璧

直前
CHECK

JIS Q 20000-1の関係プロセスの規定における、供給者、サービス提供者及び顧客の3者の関係のうち、適切なものはどれか。

- ア 供給者、サービス提供者及び顧客は、それぞれ別々の組織（外部）に所属する。
- イ 供給者のサービスも含めて、サービス提供者が、顧客にサービスを提供する。
- ウ 供給者は、サービス提供者を顧客とみなしてサービスを提供することはない。
- エ 供給者はサービス提供者からサービスや製品を受領して、顧客に提供する。

問 3

正解

完璧

直前
CHECK

ITサービスマネジメントのプロセスの一つである構成管理を導入することによって得られるメリットはどれか。

- ア ITリソースに対する、現在の需要の把握と将来の需要の予測ができる。
- イ 緊急事態時でも最低限のITサービス基盤を提供することによって、事業の継続が可能になる。
- ウ 構成目録の情報を正確に把握することによって、他のプロセスの確実な実施を支援できる。
- エ 適正な費用で常に一定した品質でのITサービスが提供されるようになる。

**問 1****エ**

ITIL：ITサービスマネジメントに関する一連のベストプラクティス（成功事例）をまとめたもの。ITILは英国政府機関OGC（Office of Government Commerce）に所有されており、良質なITサービスの供給に関する手引きを記載した出版物と、それらをサポートするために必要なプロセス及び設備に関する手引きを記載した出版物のセットで構成されている。

サービスストラテジ：ITサービス及びITサービスマネジメントを提供する際の全体的な戦略のこと。

サービスパイプライン：検討中か開発中で、まだ顧客に提供可能ではない全てのITサービスのリストを保持するデータベースまたは構造化された文書。

ア、ウ：サービスカタログに記載される。

イ：廃止されるサービスに記載される。

**問 2****イ**

JIS Q 20000-1：日本工業規格。サービスマネジメントシステム要求事項、ITサービスマネジメントの認証基準について規定し、ITサービスを提供する組織が満たすべき要求事項が定められている。

ア：供給者、サービス提供者、顧客が同一の組織のこともある。

ウ：供給者がサービス提供者を顧客とすることもある。

エ：サービス提供者はサービスのみを顧客に提供する。

**問 3****ウ**

構成管理：ITサービスの提供に必要な構成アイテムに関する情報を、それらに関係する情報も含めて維持することを責務とするプロセス。

ア：キャパシティ管理のプロセスで行う。

イ：ITサービス継続性管理のプロセスで行う。

エ：サービスレベル管理のプロセスで行う。

問題

問 4

正解

完璧

直前
CHECK

オンラインシステムの性能監視における注意事項のうち、適切なものはどれか。

- ア OSやネットワークなどの複数の測定項目を定常的に監視する。
- イ オンライン時間帯に性能を測定することはサービスレベルの低下につながるので、測定はオフライン時間帯に行う。
- ウ 性能データのうちの一定期間内の最大値だけに着目し、管理の限界を逸脱しているかどうかを確認する。
- エ 性能を測定する間隔は短いほど良い。

問 5

正解

完璧

直前
CHECK

レプリケーションが有効な対策となるものはどれか。

- ア 悪意によるデータの改ざんを防ぐ。
- イ コンピュータウイルスによるデータの破壊を防ぐ。
- ウ 災害発生時にシステムが長時間停止するのを防ぐ。
- エ 操作ミスによるデータの削除を防ぐ。

問 6

正解

完璧

直前
CHECK

システムが障害によって停止したときに行う、システム再開の方法の一つであるウォームスタートの説明はどれか。

- ア システムの再立上げの過程で、システム停止時に処理中であったジョブのうち、処理の続行が可能なものは処理を再開させ、入出力キューに残っているものは、そのまま処理の対象とする。
- イ システムの初期化のために、イニシャルプログラムローダによってコンフィギュレーション情報を主記憶装置上に展開する。
- ウ システムの停止で処理が中断したジョブについて、それまでに採取されたチェックポイント情報によって回復作業を実施する。
- エ ジャーナルファイルに記録されているデータを使用して、ファイルを障害発生以前の状態に戻す。

**問 4****ア**

性能監視：パフォーマンスを計測し、サービスレベルを維持しているかを継続的に監視すること。

イ：オンラインシステムの性能監視では、オンライン時間帯も性能を測定する必要がある。測定はサービスレベルの低下を生じないように行う。

ウ：測定期間における傾向も着目する。例えば、応答時間が徐々に遅くなっていないかである。

エ：性能監視の間隔が短すぎると、監視による負荷、コストが増える。

**問 5****ウ**

レプリケーション：データの一貫性を保って行う複製のこと。データベースのレプリケーションでは、マスタデータベースとスレーブデータベース（レプリカ）はネットワークを通じてデータを交換して、常に内容が一致するように動作しており、データを更新すると、マスタと全てのレプリカに更新内容が伝播する。

ア、イ：マスタ側のデータ破壊をスレーブ側に同期してしまい、データの破壊は防げない。

ウ：同時に災害が起きない遠隔地にレプリケーションしておくことで、早期にシステムを再開できる。

エ：正しい操作も誤操作も関係なく、結果が同期されるため、データの削除を防げない。

**問 6****ア**

ウォームスタート：電源をオフにしないで、リセット（再起動）すること。電源のオフによる起動と違い、起動時のBIOSによるデバイスの初期化やハードウェアのチェックの一部が省略される。

イ：コールドスタートの説明。

ウ：ロールフォワードの説明。

エ：ロールバックの説明。

問題

問 7

正解

完璧



直前
CHECK

ITILによれば、インシデントの階層的エスカレーションに該当するものはどれか。

- ア 現在の担当者では解決できなかったインシデントの対応を、高度な専門知識をもつサポートグループに委ねる。
- イ 現在の担当者では解決できなかったインシデントの対応を、広範にわたる関係者を招集する権限をもつ上級マネージャに委ねる。
- ウ 自分のシフト勤務時間内に完了しなかったインシデントの対応を、次のシフト勤務者に委ねる。
- エ 中央サービスデスクで受け付けたインシデントの対応を、利用者が属する地域のローカルサービスデスクに委ねる。

問 8

正解

完璧



直前
CHECK

ITILのインシデント管理の方針において、インシデントモデルを定義しておくことによって得られるメリットはどれか。

- ア インシデント管理プロセス及びその運用の効率性と有効性を判断するための基準を明確にすることができる。
- イ 過去のインシデントについて、履歴、カテゴリ、及び解決するために取られた処置を安易に参照することができる。
- ウ 繰り返し発生するインシデントを、事前に定義した経路で、事前に定義した期間内に処理することができる。
- エ 根本原因が判明していない問題に対する解決策を提供することができる。

問 9

正解

完璧



直前
CHECK

ITILのITサービス継続性管理の達成目標に関する説明として、適切なものはどれか。

- ア 災害が起こった後、一定期間内にシステムを復旧し、事業を継続させる。
- イ 災害だけでなく、インシデントも含めた対策を実施する。
- ウ 災害によって被害を被った情報システムの構成を修復する。
- エ 災害の発生を予測したプロアクティブな予防措置よりも、事後の復旧に重点を置く。

**問7****イ**

階層的エスカレーション：担当者では判断に困るようなインシデントの対応を上位の管理職に引き継ぐこと。定められた手順では目標とする時間内にインシデントを解決できない時に、より上位の権限を有する者に対応を委ねる。

ア：機能的エスカレーションの説明。

ウ：シフト勤務の引き継ぎはエスカレーションではない。

エ：中央サービスデスク（一か所の拠点で全てのユーザからの問合せに対応するサービスデスク）とローカルサービスデスク（ユーザのローカルサイト内に設置されたサービスデスク）の混在運用は通常行われない。

**問8****ウ**

インシデント：ITサービスに対する計画外の中断，または，ITサービスの品質の低下のこと。サービスにまだ影響していない構成アイテムの障害（例えば，ミラー化されたディスクの1つの故障）もインシデントである。

インシデント管理：インシデント発生時，可能な限り迅速にサービスを元の状態に戻すことを目標とするプロセス。サービスが元の状態に戻る（インシデントが解決する）まで，インシデントを管理する責任を持つ。

インシデントモデル：インシデントが発生したときに行う，事前に定義した処置方法。

**問9****ア**

ITサービス継続性管理：ITサービスに深刻なインパクトを与えるリスクの管理を責務とするプロセス。リスクを許容可能なレベルにまで低減し，ITサービスの復旧に対する計画立案を行うことによって，ITサービス・プロバイダが最低限の合意済みサービスレベルを常に，確実に提供できるようにする。例えば，火災，台風，地震など「災害」によってITサービスが停止に追い込まれた時に迅速に復旧させるための計画を立案し，ビジネスへの悪影響を最小限にすること。

イ：ITサービス継続性管理では，災害に起因しないインシデントは含めない。

ウ：被災した情報システムの構成を修復することは，手段ではあるが達成目標ではない。

エ：ITサービス継続性管理では，リスク管理を行い災害発生前の予防措置に重点を置く。

問題

問 10

正解

完璧



直前
CHECK

ITILによれば、既存及び新規の全てのサービスに対してビジネスインパクト分析を行うことを役割とするマネージャはどれか。

- ア ITサービス継続性管理プロセス・マネージャ
- イ 可用性管理プロセス・マネージャ
- ウ キャパシティ管理プロセス・マネージャ
- エ サービスレベル管理プロセス・マネージャ

問 11

正解

完璧



直前
CHECK

ITサービスマネジメントにおけるサービスレベル管理プロセスの活動はどれか。

- ア ITサービスの提供に必要な予算に対して、適切な資金を確保する。
- イ 現在のリソースの調整と最適化、及び将来のリソース要件に関する予測を記載した計画を作成する。
- ウ 災害や障害などで事業が中断しても、要求されたサービス機能を合意された期間内に確実に復旧できるように、事業影響度の評価や復旧優先順位を明確にする。
- エ 提供するITサービス及びサービス目標を特定し、サービス提供者が顧客との間で合意文書を交わす。

問 12

正解

完璧



直前
CHECK

JIS Q 20000-1におけるサービス継続及び可用性管理プロセスで行う活動はどれか。

- ア インシデント及び問題の影響を識別し、これを最小限に抑える、又は回避するための手順を採用する。
- イ サービス全体の可用性などの要求事項を、事業計画、SLA及びリスクを考慮して特定する。
- ウ サービスの容量・能力を監視し、サービスのパフォーマンスを調整して、かつ、適切な容量・能力を提供するための方法、手順及び技法を明確にする。
- エ 提供する個々のサービスを定義し、これに合意して、かつ、文書化する。



問 10

ア

ビジネスインパクト分析：事業を構成する個々の業務やシステムが停止した場合の事業への影響度合いを分析すること。ビジネスインパクト分析は、ITサービス継続性管理プロセス・マネージャが行う。ITサービスの復旧要件の定義には、ITサービスごとの目標復旧時間、目標復旧時点、及び最低限のサービスレベル目標値などが含まれる。

▼
解答

問 11

エ

サービスレベル管理プロセス：サービスレベル・アグリーメント（SLA）の交渉と、そのサービスレベルが満たされているようにすることを責務とするプロセス。

ア：財務管理プロセスで行う内容である。

イ：キャパシティ管理プロセスで行う内容である。

ウ：インシデント管理プロセスで行う内容である。



問 12

イ

JIS Q 20000-1：日本工業規格。サービスマネジメントシステム要求事項。ITサービスマネジメントの認証基準について規定し、ITサービスを提供する組織が満たすべき要求事項が定められている。

ア：インシデント管理プロセスで行う活動である。

ウ：キャパシティ管理プロセスで行う活動である。

エ：サービスレベル管理プロセスで行う活動である。

問題

問 13

正解

完璧

直前
CHECK

サービス提供時間帯が毎日6～20時のシステムにおいて、ある月の停止時間、修復時間及びシステムメンテナンス時間は次のとおりであった。このとき、この月の可用性は何%か。ここで、1か月の稼働日数は30日、可用性(%)は少数第2位を四捨五入するものとする。

[停止時間、修復時間及びシステムメンテナンス時間]

- ・システム障害によるサービス提供時間内の停止時間：7時間
- ・システム障害によるサービス提供時間外の修復時間：3時間
- ・サービス提供時間外のシステムメンテナンス時間：8時間

ア 95.7 イ 97.6 ウ 98.3 エ 99.0

問 14

正解

完璧

直前
CHECK

ITILにおいて、可用性管理のリアクティブな活動で用いる技法はどれか。

- ア 故障樹解析 イ コンポーネント障害インパクト分析
ウ サービス障害分析 エ 単一障害点分析

問 15

正解

完璧

直前
CHECK

ITサービスマネジメントの情報セキュリティ管理プロセスに対して、JIS Q 20000-1が要求している事項はどれか。

- ア 潜在的な問題を低減させるために、予防処置を取らなければならない。
イ デジタルの構成品目の原本を、物理的又は電子的にセキュリティが保たれた書庫で管理しなければならない。
ウ 変更要求が情報セキュリティ基本方針及び管理策に与える影響を評価しなければならない。
エ 変更要求の受入れについての意思決定では、リスク、事業利益及び技術的実現可能性を考慮しなければならない。



問 13

ウ

サービス提供時間帯が毎日6～20時なので、1日の稼働時間は14時間である。1か月の稼働日数が30日であるから、1か月の稼働時間は、

$$14 \text{ [時間/日]} \times 30 \text{ [日/月]} = 420 \text{ [時間/月]}$$

可用性に影響する停止時間は、サービス提供時間内の7時間であるから、可用性は次のように求められる。

$$(420 \text{ [時間/月]} - 7 \text{ [時間]}) / 420 \text{ [時間/月]} \approx 98.3 \text{ [%]}$$



問 14

ウ

可用性管理：ITサービスの可用性のさまざまな側面を定義、分析、計画立案、測定、改善することを責務とするプロセス。可用性管理は、全てのITインフラストラクチャ、プロセス、ツール、役割などが、可用性に関する合意済みサービスレベル目標値に適切であるようにすることを責務とする。

[リアクティブな活動] 非可用性の原因を取り除くための活動で、サービスとコンポーネントの可用性の測定、分析、報告、非可用性の調査及び是正処置の調査が含まれる。

[プロアクティブな活動] 将来の可用性を保証するための活動で、リスクアセスメント、リスク管理、サービスの計画と設計、改善が含まれる。

故障樹解析：発生が好ましくない現象について、FT (Fault Tree) 論理記号を用いて、その発生の経過をさかのぼって樹形図 (ツリー図) に展開し、発生経路、発生原因、及び発生確率を解析する。問題の原因となるイベントの連鎖を判別するために用いる。

コンポーネント障害インパクト分析：構成するコンポーネントが障害を起こした時のビジネスへのインパクトを予測して評価する手法。

サービス障害分析：ITサービス全体の可用性について、その改善の機会を見つけるために行う分析手法。ITサービス中断の潜在的な原因を識別する。

単一障害点分析：バックアップやフェイルオーバーの能力を持たず、そこに障害が起きるとサービスが中断してしまうコンポーネントを特定すること。



問 15

ウ

情報セキュリティ管理プロセス：ITサービスマネジメントの情報セキュリティ管理プロセスはISMSとの調和が図られており、JIS Q 2000-1「6.6 情報セキュリティ管理」に要求事項が示されている。

ア、イ、エ：要求事項に記載されていない。

ウ：「変更を実装する前に、変更が管理策に与える影響のアセスメントを行うこと。」とある。

問題

問 16

正解

完璧

直前
CHECK

システムの本番移行に支障を来すリスクに対するコントロールを監査するチェックポイントはどれか。

- ア システム運用段階で新システムの稼働状況がレビューされ、その結果についてシステム開発部門及びユーザ部門の責任者の承認が得られているか。
- イ システム開発段階で抽出された問題への対策が、移行後のシステム改善計画に反映されているか。
- ウ システム企画段階で、システムの投資対効果が評価されているか。
- エ ユーザ部門を含めた各部門の役割と責任を明確にした移行計画が作成されているか。

問 17

正解

完璧

直前
CHECK

工程別の生産性が次のとおりのとき、全体の生産性を表す式はどれか。

〔工程別の生産性〕

設計工程：Xステップ/人月

製造工程：Yステップ/人月

試験工程：Zステップ/人月

ア $X+Y+Z$

イ $\frac{X+Y+Z}{3}$

ウ $\frac{1}{X} + \frac{1}{Y} + \frac{1}{Z}$

エ $\frac{1}{\frac{1}{X} + \frac{1}{Y} + \frac{1}{Z}}$

**問 16****工**

システムの本番移行では、関係部門間で引き渡しが適切に行われないと移行時にトラブルが発生し、システム運用部門の受け入れが遅滞する。監査では、移行計画や移行手順が適切に作成されているか、システム開発部門とユーザー部門など関係部門の役割と責任が明確化されているかをチェックする。

ア：本番移行後の事項である。

イ：開発段階で抽出された問題の対策は、移行前に反映されていなければならない。

ウ：本番移行に関してチェックする事項ではない。

**問 17****工**

生産性：投入量と産出量（生産量）の比率。生産量を生産要素の投入量で割った値で表す。投入量としては、労働、資本、土地、原料、燃料、機械設備などの生産諸要素がある。産出量としては、生産量、生産額、売上高、付加価値、GDPなどがある。

全体の生産性を表す式は、設計工程、製造工程、試験工程の各工程の生産性を分母にとったエになる。

問題

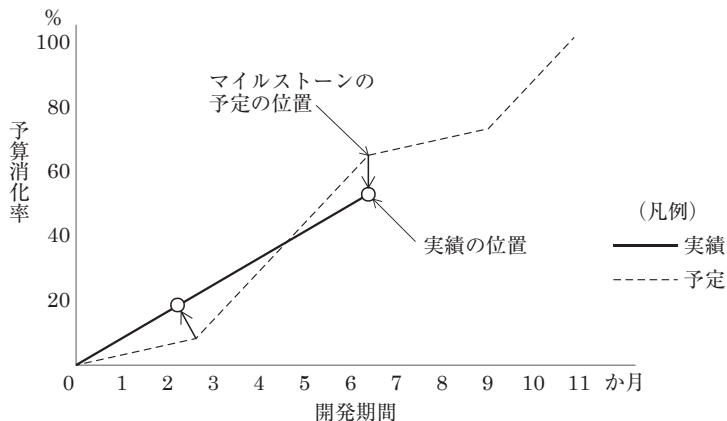
問 18

正解

完璧

直前
CHECK

システムを開発するときの進捗管理と費用管理を同時に行うために、トレンドチャートを用いる。マイルストーンの予定の位置から実績の位置に結んだ矢印が垂直に下に向かっているときの進捗と費用に関する状況説明のうち、適切なものはどれか。



- ア 進捗が予定どおりで、費用が予算を下回っている。
- イ 進捗が予定どおりで、費用が予算を超過している。
- ウ 進捗が予定より遅れ、費用が予算を超過している。
- エ 進捗が予定より進み、費用が予算を下回っている。

問 19

正解

完璧

直前
CHECK

期間10日のプロジェクトを、5日目の終了時にアーンドバリュー分析したところ、表のとおりであった。現在のコスト効率率が今後も続く場合、完成時総コスト見積り(EAC)は何万円か。

管理項目	金額(万円)
完成時総予算(BAC)	100
ブランドバリュー(PV)	50
アーンドバリュー(EV)	40
実コスト(AC)	60

- ア 110
- イ 120
- ウ 135
- エ 150



問 18

ア

トレンドチャート：費用管理と進捗管理を同時に行うときに利用するグラフ。開発計画（スケジュール）策定時に、作業の節目となるマイルストーンを設定する。開発が始まり、作業がマイルストーンに達したら、予定と実績を比較し、進捗状況の確認と以降の作業計画に反映させる。

設問のグラフの開発期間（X軸）は、予定と実績の差異がないので予定通りである。予算消化率（Y軸）は、予定より実績が下回っているので費用が予算を下回っている状況である。



問 19

エ

アーンドバリュー分析：プロジェクトの作業の到達度を金銭価値に換算したアーンドバリュー（EV）で把握する分析方法。計画時にその時点で終了していた作業の価値（PV）と、完成した作業の価値（EV）、実際にかかったコスト（実コスト：AC）から、進捗度合いを判断する。

表から、プロジェクト5日目終了時点では60万円の実コスト（AC）がかかっているが、完成している作業の価値（EV）は40万円、完成時の総予算（BAC）が100万円なので、コスト効率指標（CPI：Cost Performance Index）は、

$$CPI = EV / AC = 40 / 60$$

になり、完成時総コスト見積り（EAC）は次のよう求められる。

$$\begin{aligned} EAC &= AC + (BAC - EV) / CPI \\ &= 60 + (100 - 40) / (40 / 60) \\ &= 150 \text{ [万円]} \end{aligned}$$

問題

問 20

正解

完璧

直前
CHECK

プロセッサの省電力技術の一つであるパワーゲーティングの説明として、適切なものはどれか。

- ア 仕事量に応じて、プロセッサへ供給する電源電圧やクロック周波数を変える。
- イ 動作していない回路ブロックへのクロック供給を停止する。
- ウ 動作していない回路ブロックへの電源供給を遮断する。
- エ マルチコアプロセッサにおいて、使用しないコアの消費電力枠を、動作しているコアに割り当てる。

問 21

正解

完璧

直前
CHECK

ソフトウェアの安全対策の考え方のうち、アフォーダンスに関する記述はどれか。

- ア 機能や使い方が直感的に分かるように、コントロールパネルのボタンなどの形、色や配置を工夫することによって、誤操作を低減する。
- イ 故障による被害を最小限にとどめるように、ファイルの自動バックアップを行う機能をもたせる。
- ウ セキュリティ面の保護を複数の手段で講じて、多層で防御する機能をもたせる。
- エ 利用者が操作や入力値を誤った場合でも危険な状態が発生しないようにする。

問 22

正解

完璧

直前
CHECK

関係データベースのビューに関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア ビューの元の表に新たな列を追加するときは、既存のビューにも影響が出るので、ビューを再定義する必要がある。
- イ ビューの列は、元の表の列名と異なる名称で定義することができる。
- ウ ビューは、元の表から指定した列を抜き出すように定義するものであり、指定条件を満たす行を抜き出すように定義することはできない。
- エ 二つ以上の表の結合によって定義されたビューは、いつでも更新操作が可能である。



問 20

ウ

パワーゲーティング：動作していない演算回路ブロックに対して、クロック信号の供給停止だけでなく電源を遮断し電流を削減する半導体の省電力技術。

ア：省電力技術 DVFS (Dynamic Voltage and Frequency Scaling) の説明である。

イ：クロックゲーティングの説明である。

エ：マルチコアプロセッサで行われている高性能化、省電力化の説明である。

▼
解答

問 21

ア

アフォーダンス：心理学者のジェームス・ギブソンによる造語で、利用者によって発見される環境の資質、情報（行為の可能性）をいう。

ソフトウェアの安全対策では、機能や使い方が直感的にわかるように画面に表示するボタンの配置や、押せそうな感じやYES/NOを色分けしたり○×で記号化したりして、操作ミスを低減することが重要になっている。

ア：アフォーダンス、視覚的なクオリア（感覚質）の説明。

イ：オートバックアップの説明。

ウ：多層防御の説明。

エ：フールプルーフの説明。



問 22

イ

関係データベースのビュー：一つ以上の表から、表の中のデータから任意の条件にあったデータを選択し、表示したもの。

ア：元の表に列を追加しても既存のビューには影響しない。行の追加を行ったときは、再定義が必要になる。

イ：元の表の列名と、ビューの列名では異なった名称にすることができる。

ウ：ビューでは条件にあった任意の行を抜き出すことができる。

エ：二つ以上の表を結合して定義したビューの更新は、元の表の情報を持たないために更新操作は可能ではない。

問題

問 23

正解

完璧



直前
CHECK

磁気ディスク装置や磁気テープ装置などのストレージ（補助記憶装置）を、通常のLANとは別の高速な専用ネットワークで構成する方法はどれか。

- ア DAFS イ DAS ウ NAS エ SAN

問 24

正解

完璧



直前
CHECK

ISO 22301:2012が要求事項を規定している対象はどれか。

- ア ITサービスマネジメントシステム
イ 個人情報保護マネジメントシステム
ウ 事業継続マネジメントシステム
エ 情報セキュリティマネジメントシステム

問 25

正解

完璧



直前
CHECK

派遣労働者の受入れに関する記述のうち、派遣先責任者の役割、立場として、適切なものはどれか。

- ア 派遣先責任者は、派遣先管理台帳の管理、派遣労働者から申出を受けた苦情への対応、派遣元事業主との連絡調整、派遣労働者の人事記録と考課などの任務を行わなければならない。
- イ 派遣先責任者は、派遣就業場所が複数ある場合でも、一人に絞って選任されなければならない。
- ウ 派遣先責任者は、派遣労働者が従事する業務全般を統括する管理職位の者の内から選任されなければならない。
- エ 派遣先責任者は、派遣労働者に直接指揮命令する者に対して、労働者派遣法などの関連法規の規定、労働者派遣契約の内容、派遣元からの通知などを周知しなければならない。



問 23

工

DAFS (Direct Access File System) : ネットワーク・ファイルシステムの一つ.

DAS (Direct Attached Storage) : サーバに直接ストレージを接続する方式.

NAS (Network Attached Storage) : ストレージを既存のネットワーク上に接続し、データのやり取りを行う方式.

SAN (Storage Area Network) : LANから独立したストレージ専用のネットワークを構築して、ストレージとサーバを接続する方式.



問 24

ウ

ISO 22301:2012 : 事業継続マネジメントシステム (BCMS: Business Continuity Management Systems). 組織の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデントの発生の際に、「事業を継続する」ために必要な企業活動を管理するマネジメント手法のこと.

ア : ITサービスマネジメントシステムは、ISO 20000である.

イ : 個人情報保護マネジメントシステムは、JIS Q 15001である

エ : 情報セキュリティマネジメントシステムは、ISO 27001である.



問 25

工

派遣労働者 : 派遣元 (人材派遣会社など) と雇用契約を結び、派遣先企業の指揮・命令の下で働く者.

派遣先責任者 : 派遣元との連絡調整や派遣労働者の苦情対応などの窓口として規定されている。派遣先責任者の役割は次になる。

1. 次の事項を派遣労働者の業務を指揮命令する者等関係者への周知
 - (1) 労働者派遣法及び労働基準法等の適用に関する特例等により適用される法律の規定
 - (2) 労働者派遣契約の定め
 - (3) 派遣元事業主から受けた通知の内容
2. 派遣受入期間の変更通知に関すること
3. 派遣先管理台帳の作成、記載、保存及び通知に関すること
4. 派遣労働者からの申し出を受けた苦情の処理
5. 派遣労働者の安全衛生に関し、派遣先において安全衛生に関する業務を統括管理する者及び派遣元事業主との連絡調整
6. その他派遣元事業主との連絡調整